



日本医療機能評価機構認定病院

美山だより



第 36 号

2016. 9

社団医療法人 啓愛会

美山病院

〒023-0132 奥州市水沢区羽田町字水無沢 495-2

TEL 0197-24-2141

FAX 0197-24-2144

URL <http://www.keiaikai-miyama.jp/>

理念

よき医療とやすらぎの環境

美山病院の基本方針

- 1・地域医療に貢献し、すべてのサービスに誇りと責任を持ち愛される病院になります。
- 2・医療人としてよりよい医療や看護が提供できるよう自己研鑽します。
- 3・安心した療養生活ができるように心の通った介護をいたします。
- 4・健全経営を確立し、常に個人と組織が向上する環境を保ちます。
- 5・病院組織をあげて医療の安全確保や感染対策に最善を尽くします。

「第5回遺族会を終えて」

H28年7月16日(土)13:30から第5回遺族会「七夕の会」を開催しました。遠方からは東京から、県内では大船渡からお越し頂き、15名12家族のご遺族の方々にご出席頂きました。ボランティアの遠山さんが弾かれるピアノの心地良いBGMの中、ご遺族の皆さまと涙あり、笑いあり、そして懐かしさや切なさを感じながらも皆様が少しずつお元気になられているお姿や心温まるお言葉を感じながらの1時間半でした。

「自分も最期はここで迎えたいです。」とお話しして下さったご遺族もおられました。とても有り難いお言葉だと嬉しく感じました。今後も、残されたご遺族の方々のお気持ちの支えになれるよう今、目の前におられる患者様に私たちが出来る精一杯の事をしていきたいと思っています。



「栄養科手作りのお菓子でおもてなし」

目次

1P…第5回 遺族会を終えて

2P…第18回美山・ベルク夏まつり開催／岩手医大医学生が医療体験

3P…啓愛会・美楽会合同発表会／看護学生のためのサマーセミナーを開催

4P…エンゼルケア 大切な人とお別れ「3回」

「第18回美山・ベルク夏まつりの開催」

平成28年7月30日16:00~

今年の夏祭りには入院患者さんとご家族一緒に参加した姿が多く見られました。また、各病棟からもたくさんの患者さんが参加し、病室という空間と違った場所でいつもと違った表情で過ごしていました。

引き換え券で交換してもらう「ミニセット」は焼きそば、たこ焼き、水まんじゅうが一つの容器になって出てきました。

夏祭りを思わせる内容と味も量も丁度良いと好評でした。
犬との触れ合い体験コーナーではみんな膝の上に抱っこして犬の背中を撫でていました。
わ組の演舞を観た後は興奮気味に「こんな近くで見れでよがった」「力強くて、いがったやー」「大きした良いもの見せられだー」等々感想が口々から聞かれました。参加したみんなで楽しめた良い時間でした。最後に病室に戻るためエレベーターに乗るのを待っていたら、わ組の方から声をかけられ一緒に写真を撮らせて頂きました。

総看護師長 佐藤裕子



「膝に抱っこ」



「ミニセット」



「わ組とパチリ」

岩手医大 医学生医療体験で訪問

平成28年7月25日(月) 8:30~



「病院玄関にて」

岩手医大の医学生4名が医療体験として訪問し、活動を通して医師の果たすべき役割を習得することを目的として来院された。

体験内容は、各病棟の見学・併設老健の見学とリハビリ訓練の体験や食事の配膳と食事の介助体験を行って頂いた。

午後は、病棟回診の補助体験として、院長回診に同行して頂いた。

夕方から1日の各分野の見学や体験を含めて、感想懇談会を実施した。

初めに院長曰く。「自分は数年前まで医者をしながら役者もやっていたが、役者を演じることで患者さんの心の痛みを和らげる効果もあり、寄り添う姿勢こそが一番大切である」と基本的な事柄を述べて頂いた。

学生側の感想としては、「知り合いにも居ることから認知症について、とても興味をもって勉強することができた。また、実際に食事介助をやってみて大変さを知り、今まで経験したことがないことに関わって良い経験をさせて頂いたと思う。」とコメントを頂いた。

本日の参加者で、東北出身は1名でしたが、岩手県の医療のためにも卒業後も残り是非この地に貢献して頂ければありがたいと強く思います。

事務長 千葉新一

平成28年度(啓愛会・美楽会)合同発表会開催

7月1日(金) 午後1:00~奥州市文化会館(乙ホール)



演題 『他職種協働による重症呼吸不全患者の看護』

発表者 看護師 菅原麻衣

重症呼吸不全の患者さんとご家族様の意向に沿った看護の提供が出来るように今回この研究を行いました。他職種とのカンファレンスでは情報交換を密に行なう体制に変えたことで、満足につながる看護の介入ができたのではないかと考えます。

ご家族様からも「人工呼吸器をつけても良くなるとは限らない、人間らしさということを考えてこのままここで見てもらいたい」という思いを傾聴して参りました。

最期には旦那さんとご家族様より「ここで見てもらえてよかった、本当によかった。」という言葉をいただきました。

まだまだ課題はありますが、今後も他職種と協働し患者さん、ご家族様が満足していただけるよう支援に努めてまいります。



看護学生のためのサマーセミナーを開催して

毎年県内の病院では看護学生に向けてのサマーセミナーが開催されており、当院でも8月10日にサマーセミナーが開催されました。参加人数は6名で、県立一関高等看護学院から1名、水沢学苑看護専門学校から5名で、3年生1名、2年生3名、1年生2名と学年も年齢も様々でしたが白と紺のリクルートスタイルで15分前には来られており、サマーセミナー担当者としては身の引き締まる思いで、有意義な1日になればいいなと思いました。



実習着に着替えてから、総師長から病院の概要や理念などを説明され、チーム医療を大事にしている病院ということで、薬剤科、検査科、リハ科、デイケアなどの多職種の見学を中心にして、緩和ケア病棟の施設を見学する頃には緊張感も取れて、屋上からの眺めに驚かれていました。その後、栄養科より高齢者に食べやすい食事形態の説明と試食。そして、各病棟に分かれて先輩看護師に指導を受けながらの食事介助とコミュニケーション。はじめて接する患者さんと笑顔で話している姿は、さすが看護学生さんだと感心しました。午後からは、看護師確保対策室からの説明や指導した先輩看護師も交えての交流会。見学中も質問や一生懸命メモを取っている姿が印象的で素晴らしいなと感じましたが、交流会でも活発な意見交換が見られ、和やかな雰囲気の中時間が過ぎていきました。最後に担当者との写真撮影会を行いました。学生さんからは「患者さんに対する寄り添いの看護の素晴らしいや、職場の雰囲気がとても明るい」などの感想も書いて頂き、私たちにとっても良い刺激となり、まさに有意義な1日だったと思いました。

教育担当 主任看護師 戸巻礼子

エンゼルケア大切な人とのお別れ



緩和ケア病棟 主任看護師 戸巻礼子

私が、関わらせていただいた患者様の中で印象に残っているエピソードをお話ししたいと思います。

娘さんと孫さんとの3人暮らしの80代の女性でした。女性3人で暮らしていたため、娘さんが働いて一家を支えていました。お孫さんにとって、おばあちゃんはとても大切な存在でしたが、そのおばあちゃんが病魔に倒れ、闘病の末お亡くなりになってしまったのです。

病室から聞こえるお孫さんの号泣する声は、心の叫びのようでした。このままでは、おばあちゃんの死を受け止められないのではないかと心配になり、娘さんに「もしよかったですたらシャワー浴に一緒にお孫さんもどうですか？聞いてみて下さい。」と声を掛けたところ、娘さんから「入ってもいいと言っています。」との返事。

浴室でも泣きながらそばに居るお孫さんに、「たくさん世話になったおばあちゃんの手、洗ってもらえる？」と声を掛けると、小さくうなずいて泣きながら慣れない手つきで手や足などを洗っていただきました。

最初は泣いていたお孫さんも次第に落ち着いてきて、病室に戻る頃には表情も明るくなっていたのです。

後日、改めて連絡を取った時に
お孫さんの事が心配だったことも
あり伺ったところ、「火葬の日が
高校受験の日で心配したけど、
娘はおばあちゃんの身体洗ったり
できたから、大丈夫。」と話され
ていたとのこと。
エンゼルケアに参加したことで、
心の中でおばあちゃんにお別れが
出来たのかなと感じたエピソードでした。



《37号に続く》